

# ロボットで手術支援

磐田市立総合病院 本館北側に新施設



手術支援ロボットを導入した手術室＝磐田市立総合病院

磐田市立総合病院は、手術件数が増加傾向にある中、患者が適切なタイミングで手術を受けられるよう、手術室を増やす必要があると判断し、新施設建設を決めた。手術室は従来よりも広いスペースを確保した2室を設けた。

同病院の手術室は計10室になった。ダヴィンチは、医師が操作台に座り、患部の3次元映像を見ながら、アームの先の鉗子（かんし）を動かして患部の切除や剝離、縫合などを行う。手ぶれ補正機能や、人の指よりも広い関節可動域を生かし、繊細な動きが可能という。

同病院では、がんの摘出を中心に、呼吸器、消化器、泌尿器など幅広い手術に活用する。医師の研修を経て10月に運用開始する見通し。鈴木昌八院長は「座ったまま安全に操作でき、医師の負担軽減につながる」としている。工事費とダヴィンチ購入費合わせて約7億7800万円。24日に

は、草地博昭市長や市地域住民に安心してもらえ医療提供につながる。ダヴィンチの操作「は、救える命が増える。」と期待した。草地市長は「期待している」と述べた。（磐田支局・八木敬介）